

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書7章1-10節＞

1 この話から何を聞き取る？ ⇒ 神様はルカを用いて何を語られる？

「言っておくが、イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない」(9)。百人隊長のイエス様への信仰（信頼）の篤さを学ぶことが、この箇所から学びなさいと神様から示されている第一のことです。百人隊長は異邦人です。その人がここに記されたようにイエス様に畏怖の念を抱いて接しているのですから、何かきっかけがあってユダヤ人の神である旧約聖書の神を信じる者となり（「神を畏れる者となる」（使徒言行録 10:2））、しかも、その神様がイエス様を遣わされたことを深く悟ったのです。9節のイエス様の驚きがそのことを示しています。

2 主への篤い信仰はどんな姿を生み出すか？ 謙虚さと深い信頼。

百人隊長は結局イエス様の前に現れていません。「自分はあなたにお会いできるような者ではない」という思いがそうさせたのであり、それがイエス様を感動させたのです。しかし、ユダヤ人たちはそうは思っていない(4-5)。部下への思いやりにも満ちています(2-3)。主を前にした畏れが生み出す謙虚さを教えられます。私たちはどうでしょうか？ さらに、イエス様に会って頼んでもいないのに、部下の病は癒されたのです。否、会って頼もうとしなかったことが、イエス様へのより深い信頼を示したのです。これほどイエス様への信頼を示す信仰なら、たとえ部下が死んだとしても、そこに神様の御旨があると信じる姿を示したのではないのでしょうか、ゲッセマネの園で祈られたイエス様のように(22:39-46)。私たちはどうでしょうか？

3 異邦人伝道の開始（使徒言行録10章）を予示する出来事。

実は、この百人隊長の姿は、同じルカが記した使徒言行録の中に記されている百人隊長コルネリウスによく似ています（使徒言行録10章）。イエス・キリストの福音が全ての人に向かう出来事がこの時すでに始まっていたのです。それは、人に仕えられるのではなく人に仕えることを良しとする秩序が打ち立てられ(22:24-30)、それを実践する者が権威者として立つ時、その権威を尊び、従うことを教える福音なのです(8)。